

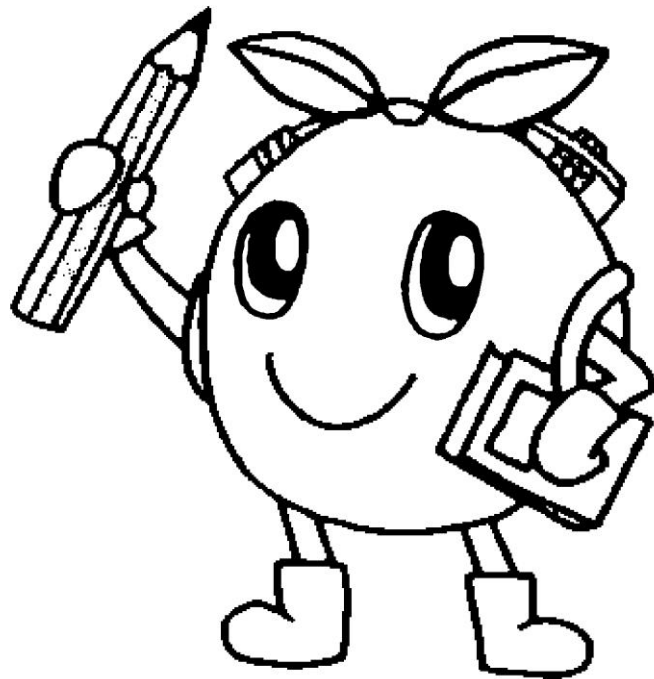
教員用手引き

中学校で

これだけは身に付けてほしい

基礎英単語 1200

【KORETAN1200】



高知県教育委員会

平成27年6月

も く じ

1	はじめに	1
2	指導上ご留意いただきたいこと	2
3	学習方法と使用時期	3
4	その他の活用方法	4
5	JACET8000	5

1 はじめに

この単語集は、『高知県中学生必須英語語彙リスト(中英単 Version-01)』(2011, Kochi 語彙研究プロジェクト)をもとに、「自己診断」と「繰り返し」を重視して、①「自己診断チェックシート(1回~13回)」、②「英単語グルーピングチェック」、③「1200語ファイナルチェック」、④「Let's read !」、⑤「英単語チェック」という5つの学習方法で、中学生が自学自習で英単語の学習を進めることができるよう構成しています。

この単語集を活用した英単語の学習については、中学校の先生方のサポートが必要不可欠ですので、次項の**2指導上ご留意いただきたいこと**をご一読の上、適切なご指導をお願いします。

各中学校においては、中学生の英語力向上のためにこの単語集を利用いただき、生徒の実態や学校の特色などに十分配慮していただいたうえで、「**どのような語彙を、どのような時期に、どのような方法で、どの程度指導する**」のかについて、英語科の指導シラバスの中に位置付けていただくことをお願いします。その際、授業や家庭等において、生徒が教科書や『英語ライティングシート』等と併せて、活用することができるようご指導をお願いします。

また、この単語集では1200語の英単語を身に付けるために、下のように「**基本的ゴール**」「**発展的ゴール**」を設定しています。特に、「**基本的ゴール**」については、生徒全員が達成できるようご指導をお願いします。

<この単語集が目指すゴール>

■基本的ゴール■ (中学生全員に達成してもらいたいゴール)

◎英単語を見て、意味がわかり、正しく発音できる。

■発展的ゴール■ (基本的ゴールを達成したら、目指してもらいたいゴール)

○英単語を聞いて、意味がわかり、正しいつづりで書くことができる。

○英語を話すときに、その英単語を必要に応じて適切に使うことができる。

○英語を書くときに、その英単語を必要に応じて適切に使うことができる。

2 指導上ご留意いただきたいこと

(1) 配付時期について

生徒への配付については、各校の指導シラバスや生徒の実態等を踏まえ、**3 学習方法と使用時期**を参考に、適切な時期にお願いします。次項の一覧表のように、全学年とも年度当初に配付していただき、3年間の中で繰り返し活用していただける内容となっています。

なお、配付に際しては、活用方法の説明を併せて行っていただきますようお願いいたします。

(2) 語・品詞・意味・例文について

語・品詞・例文は、原則『高知県中学生必須英語語彙リスト（中英単 Version-01）』に掲載されているものを使用しましたが、自学自習の教材として一層効果的に活用できるように、一部に修正や加筆を行いました。「関係代名詞」等も重要な情報ですが、授業での導入が不可欠であるため、あえてこの単語集の中では示していません。

また、「序数」等の一部の語を除いて、ほとんどの語に例文があります。これらの例文は中学校3年間で学習する文法事項をほぼ網羅しており、意味理解を確認する活動や、音読等の活動においても効果的に活用していただけるものと考えます。

なお、この単語集の**Let's Read!**に掲載した物語には、イギリス英語表記の theatre という単語も登場しますが、単語集の**アルファベット順語彙リスト**の中では、アメリカ英語表記の theater のみを掲載しています。このような英米のつづりの相違については、生徒の気づきを促すようご指導をお願いします。

(3) 音声指導について

この単語集には、付属の音声 CD や発音に関する情報はありません。したがって、この単語集を使用する生徒にとっては、中学校の先生方によるモデル発音が非常に大切な情報となります。授業等の時間を効果的に活用し、音声指導の場面を設けていただきますようお願いいたします。

音声指導に際しては、意味を理解した後に、モデル発音を聞かせたり、繰り返し発音練習を行う活動の中で、誤った発音の矯正を行ったり、生徒が自信をもって1200語を正しい英語で発音することができるようご指導をお願いします。

また、ALT や ICT 等を効果的に活用していただき、生徒が飽きずに繰り返し練習に取り組めるようご配慮願います。

3 学習方法と使用時期

(1) 5つの学習方法

- ① 「自己診断チェックシート」(1回～13回)
- ② 「英単語グルーピングチェック」(7種類)
- ③ 「1200語ファイナルチェック」
- ④ 「Let's Read!」(17の英文物語)
- ⑤ 「英単語チェック」

※各学習方法の詳細については、この単語集の**3スタディガイド**でご確認ください。

(2) 学習方法別の使用時期一覧表

方法	1年生		2年生		3年生	
	前半	後半	前半	後半	前半	後半
①		1回～4回 中学1年生の後半から使用できます				
			5回～8回 中学2年生から使用できます			
					9回～13回 中学3年生から使用できます	
②		中学1年生の後半から使用できます				
③					中学3年生から使用できます	
④					中学3年生から使用できます	
⑤	中学1年生から使用できます					

4 その他の活用方法

この単語集は、生徒に提示した5つの学習方法以外にも、先生方の工夫次第で、様々な方法で活用できます。いくつか具体的な活用例を掲載しましたので、参考にいただければ幸いです。

例	目的	活用方法
①	中学校3年間で指導すべき受容語彙を確定し、3年間の語彙指導シラバスを作成する。	【教科書に登場する単語との照合～指導シラバスの作成～他教員との共有】 この単語集の1200語が、学校で使っている何年生の教科書のどこに登場するのか、どういう品詞や意味で扱われているのか等、教科書とこの単語集の「アルファベット順語彙リスト」を照らし合わせて確認する。この単語集の1200語にはあるが、教科書には掲載されていない語がある場合は、いつ、どのように指導するかを決める。最終的に、3年間の受容語彙（「読むこと」「聞くこと」の領域において使うことができる語彙）の指導計画やシラバスを作成し、校内で共有する。
②	中学校3年間で指導すべき発表語彙を確定し、3年間の語彙指導シラバスに明示する。	【発表語彙の選定～指導シラバスへの明示～他教員との共有】 例①において中学校3年間で指導する受容語彙を確定した後、特に発表語彙（「話すこと」「書くこと」の領域において使うことができる語彙）を確定する。発表語彙の確定に際しては、たとえば、教科書の「話すこと」「書くこと」に関する学習活動や言語活動における頻出語や、生徒の興味・関心、地域や学校の特色等を踏まえた表現活動で、教員が生徒に活用させたい語を選定し、指導計画やシラバスに明示する。
③	受容語彙の定着度の確認	【〇×式定着度チェック～事後指導】 生徒はこの単語集の「1200語一覧」のページを利用して、1200語を一つずつアルファベット順に見ながら、「意味がわかる語には〇、意味がわからない語には×をその後の横に鉛筆で記入する」という簡単な活動を行う。意味の確認は、直感的に1語につき3～5秒程度の時間で行うよう指示する。時間がかかることが想定される場合は、一度に確認する語数を減らし、600語×2回、400語×3回、300語×4回等、回数を増やして対応する。活動後、教員は生徒の単語集を回収し、〇×がどの語に付けられているかを確認し、記録に残す。既習語であるにもかかわらず多くの生徒が×を付けている語があれば、定着のための事後指導を行う。
④	受容語彙の定着	【〇が付いた語の一步進んだ記述式定着度チェック】 例③において〇が付いた語について、一步進んだ定着度の確認を行う。まず、生徒は〇を付けた語について、何も見ないで日本語の意味をノートに書く。その後、生徒は本書を用いて自分が書いた日本語の意味が正しいかどうかを確認する。正しい場合は〇を◎に書き変える。
⑤	受容語彙の定着	【×が付いた語の定着を図る活動】 例③において、既習語であるにもかかわらず多くの生徒が×を付けた語の一覧（1回で5～10語程度、品詞・意味を書き込む空欄付）を作成し、クラスに配布する。生徒は一覧表の品詞や意味を「アルファベット順語彙リスト」等を用いて調べ、書き込む。その後、ペアで確認したり、教員による確認作業を行うとともに、発音指導や音読活動などを行う。
⑥	受容語彙の定着	【帯活動での活用】 「アルファベット順語彙リスト」を利用して、意味の確認、発音練習、音読活動等、毎授業5分間程度の帯活動を行う。家庭では帯活動で扱った語の復習として、「音読しながら書く活動」（音読筆写）を行わせる。また、「意味」を見て「文字」を選択する、「音」を聞いて「綴り」に変換する、というような小テストを定期的に行う。

5 JACET8000

JACET は、The Japan Association of College English Teachers（社団法人大学英語教育学会）の略称で、大学等における英語教育関連の研究や実践発表の場をつくり、調査や研究等を通じて、日本の英語教育の発展に寄与することを目的とした研究団体です。その JACET が、1 億語の BNC(British National Corpus) を基準として、日本人の英語学習やアメリカ英語についての資料を徹底的に分析し、英語によるコミュニケーションを図るうえで日本人に必要な基本 8000 語を選定したものが JACET8000 です。JACET8000 の掲載語は、以下のように 1000 語毎に 8 つのレベルに分類されています。

Level 1 【順位 1000 位まで】

中学校の英語教科書などに頻出する基本的な単語。一般英文の約 70%以上が、このレベルの単語で書かれており、英語学習の初期に身に付けるもの。

Level 2 【順位 1001～2000 位】

高校初級レベルの単語。英字新聞の 75%、平易な読み物ならば約 90%をカバー。英検準 2 級レベルに相当。

Level 3 【順位 2001～3000 位】

高等学校英語教科書のレベルの単語。大学入試センター試験は、ほぼこのレベルの単語で作成されている。英検 2 級に相当。社会人は教養として身につけておきたいレベル。

Level 4 【順位 3001～4000 位】

大学受験レベル、大学一般教養の初級レベルの単語。日本人が単語力の有無を問われるレベル。英検 2 級に相当。

Level 5 【順位 4001～5000 位】

難関大学受験レベル、大学一般教養レベルの単語。英検準 1 級のレベル。TOEIC では、おおよそ 400 点から 500 点前後に相当。

Level 6 【順位 5001～6000 位】

英語専門外の大学生やビジネスマンが目標とするレベル。英検準 1 級、TOEIC では 600 点に相当。

Level 7 【順位 6001～7000 位】

英語専門の大学生、英語教師、仕事で英語を使うビジネスマンの到達目標。英検 1 級や TOEIC では 95%以上の単語をカバー。

Level 8 【順位 7001～8000 位】

日本人英語学習者の最終目標。英語を仕事として使う場合、95%の単語を知っていることに。英検 1 級や TOEIC では 95%以上の単語をカバー。

参考：『大学英語教育学会基本語リスト』に基づく JACET8000 英単語（桐原書店）

JACET8000 は、現在最も信頼できる英語の語彙リストの一つであり、この単語集の 1200 語を選定する作業においても、基準データとして用いられました。したがって、1200 語のほとんどが JACET8000 に掲載されています。

なお、1200 語の選定に際しては、JACET8000 以外に、新旧文部科学省検定済教科書、小学校外国語活動の英語ノート、市販の英単語集等も用いられているため、1200 語の中には JACET8000 の頻度順で示せない語も一部あります。

